

令和8年度第1回 第5次江東区地域福祉活動計画推進・評価委員会概要

日 時：令和8年8月31日（月）10：00～12：00

会 場：江東区高齢者総合福祉センター 3階研修室

出席者：（委員）12名

長倉真寿美委員長（オンライン）、岡田哲郎副委員長、基純一委員、
大山秀治委員、土屋健志委員、青柳浩二委員、錦織純子委員、鈴木健之委員、
奈尾健史委員、龍野真知子委員、岩瀬亮太委員、吉田正子委員
（事務局）14名

渡辺恵司会長、岩井健事務局長（兼委員）、大和聖平総務課長、
西島雅行福祉サービス課長、古川謙也地域福祉推進課長、
以下 係長9名

【会議の要旨】

- 令和8年度第1回江東区地域福祉活動計画推進評価委員会が開催された。
- 新任委員として以下6名が就任したとの報告があった（任期：令和9年5月末まで）。
- 第5次江東区地域福祉活動計画の概要について説明があった。
- 評価については、『今できていること・良かったこと・継続したいこと』、『見えてきた地域の課題』、『できること・できそうなこと・やってみたいこと』の3つの視点から評価する方法を採用しているとの説明があった。
- 区民評価・団体評価の結果、社協事務局評価結果（一部抜粋）について説明があった。

●区民評価（資料1）

【評価できる点】

コミュニティカフェ・ボランティア・見守り活動等を通じたつながりの拡大

【課題】

参加者の固定化、活動への関心が薄い層の存在、集合住宅でのつながり希薄化、
担い手不足・若い世代への訴求不足

【今後やってみたいこと】

挨拶運動の拡大、森下03カフェの運営軌道化、学生による活動創出など

●団体評価（資料2）

【評価できる点】

講座・イベント・地域交流の機会拡大、ボランティア受け入れ・人材育成の進展

【課題】

異分野との連携不足、専門的知識・経験の地域共有機会の少なさ

【今後やってみたいこと】

既存の取り組みの拡充・拡大、誰かの支えになる経験ができる活動をつくりたい、
子どもたちとの双方向の学びのある関係をつくりたい

〈意見交換〉

- 3つの視点による評価方法が分かりやすく、「人を大事にする」という第5次計画の姿勢が表れているとの意見があった。
- 地域福祉サポーターについて、地域を越えて活動できる仕組みをつくることで、区全体を知る機会や交流につながるのではないかと提案があった。

- 「おせっかい」と声かけによるつながりづくりを広げることの重要性が示され、具体的な成功事例を共有し、声をかけるきっかけをつくる必要があるとの意見があった。
- 子ども・学生の福祉体験について、児童・生徒の福祉体験学習は、今後も継続すべき重要な取組であり、将来的には災害時の高齢者支援などにもつながるとの意見が出された。
- 子ども・学生のボランティア体験について、体験を通じて将来のボランティア活動につながる可能性があるとの意見が出された。また、個人ボランティアを大切にし、将来の活動の芽を育てることが重要との意見が出された。
- つながりを望まない人へのアプローチについて、どのように働きかけるかといった課題が提起された。
- 高齢者の見守り活動の継続と今後のフォロー体制についての意見が出された。
- 身寄りのない人が地域活動に参加できる仕組みや制度についての課題が提起された。
- 災害ボランティア養成講座について、関心を高めるための周知や仕組みづくり、講座内容についての意見が出された。
- 地域福祉活動を進める上で、単に事業の実績や参加者数を増やすだけではなく、「つながりを持ちにくい人にも届いているか」「活動を担う人が継続できる環境になっているか」「地域ごとの特性を踏まえているか」という視点が重要であることが共有された。
- 地域づくりは行政や一つの団体だけが担うものではなく、住民・団体・行政・社協がそれぞれの強みを生かして「共に」地域をつくることが重要との認識が共有された。
- 次回（12月）開催の委員会において、委員会評価案について検討することとなった。